

## NGC 3294 に超新星 (1992 G) 発見

茨城県鹿島郡波崎町の佐々木俊司氏は1992年2月9日23時18分45秒から23時22分45秒(日本標準時)までの間に撮影したこじし座のNGC 3294の写真の原板上で光度約14等の超新星らしき像を発見し、国立天文台に連絡して来られた。国立天文台では13日に届いた写真の原板を詳しく検査し、小惑星や変光星の可能性を調べ、また、パロマー星図やリック天文台写真星図と比較調査した結果、殆ど超新星に間違いないことが分かり国際天文学連合天文電報中央局へ連絡した。国際天文学連合天文電報中央局からは、天文電報と共に回報5452号にNGC 3294の超新星1992 Gとして公表された。

八ヶ岳南麓天文台の串田嘉男・麗樹夫妻によると2月7日の実視観察の記録では13—13.5等級以下であったらしい。

佐々木氏の発見時の写真から得た1950.0の分点による位置は次の通りである。

赤経=10時33分26.49秒、赤緯=+37度34分51.6秒

銀河の中心核から27秒東、10.5秒南にあたる。

NGC 3294には1990年に1990 Hと名付けられた超新星が、中心核の西側に出現している。

なお筆者のノートによると、日本人による超新星の発見は1991年12月9日の串田麗樹さんに続いて9個目である。

香西洋樹 (国立天文台)



写真説明：1992年2月15日03時50分00秒—04時08分00秒(J. S. T.)に撮影したNGC 3294と超新星1992 G(八ヶ岳南麓天文台・串田嘉男氏撮影)。